

ビョウタケ目ビョウタケ科

クチキトサカタケ

Ascoclavulina sakaii Otani, 1974

島根県:絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵18

島根県固有評価: -

環境省: -

【選定理由】

日本固有種であり、分布がまれである。県内では近年まで確実な分布の記録はなかったが、2002年に県西部において分布が確認された。本種はブナ林に分布し、ブナの倒木あるいは立ち枯れた幹の地際付近に発生するため、ブナ林の減少とともに、県内での絶滅が危惧される。

【概要】

子実体は塊状に発生し、後にこん棒状あるいは先端が扁平なこん棒状の突起を放射状に形成する。こん棒状の突起は径0.5-1cm、長さ通常1-3cm。全体の大きさは径が2.5-10cm、高さ2.5-7cm。表面は灰黄色から明るい灰緑色、のち淡オリーブ褐色からオリーブ褐色。子のはこん棒状から円筒形、65-100×4.5-7μm、無弁子で、頂孔はヨード反応陰性、8個の子のう胞子を含む。子のう胞子は楕円形、6-7×2.5-4μm、無色あるいはわずかに緑色を帯び、2-3個の油滴をもつ。

本州、四国、九州のブナ林に分布し、夏から秋にブナ

の倒木や立ち枯れた樹幹の地際付近に発生する。

【県内での生育地域・生育環境】

県西部のブナ林において分布が確認されている生育地は倒木および立ち枯れたブナが比較的多い地域で、本種子実体は倒木や立ち枯れたブナの比較的乾燥しにくい部位に発生する。

【存続を脅かす原因】

生育域の狭小化、基質であるブナなどの倒木の減少、生育場所の乾燥化。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○		○																	

キクラゲ目

ムカシオオミダレタケ

Elmerina holophaea (Patouillard) Parmasto, 1984

島根県:絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵18

島根県固有評価: -

環境省: -

【選定理由】

国内における分布がまれである。県内では近年まで確実な分布の記録はなかったが、2002年に県西部のブナ林で分布が確認された。しかし、その後新たな産地は確認されておらず、県内での絶滅が危惧される。

【概要】

子実体は平たい丸山型からやや馬蹄型、無茎で、傘の側面が基質に付着し、半円形に生じる。径3-15cm、基部の厚さ1-5cm。肉質はやや多湿で寒天質を含み脆く、乳白色、淡黄褐色から淡桃褐色で、乾燥すると著しく収縮し、原型を失う。傘の上面は長さ1-5mmの羽毛状に分岐した毛に覆われ、下面は放射状から迷路状のひだとなる。担子胞子は倒卵形、無色、平滑、10-12×4-7μm、薄壁、非アミロイド性。子実体は単室担子菌類サルノコシカケ科のそれに類似するが、隔壁をもつ担子器を形成するため、多室担子菌類のシロキクラゲ目に所属する。

本種は日本固有種とされていたが、近年東南アジアおよび極東ロシアにも分布することが明らかになった。国内では北海道、本州、四国、九州のブナ林に分布し、夏から秋に発生するが、まれな種である。

【県内での生育地域・生育環境】

県西部のブナ林において分布が確認されている生育地は腐朽の進んだブナなどの倒木が多くある地域で、本種子実体は倒木の比較的乾燥しにくい部位に発生する。

【存続を脅かす原因】

生育域の狭小化、基質であるブナなどの倒木の減少、生育場所の乾燥化。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○		○																	

菌類

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

タマチヨレイタケ目マンネンタケ科

エビタケ

Ganoderma tsunodae (Yasuda) Trotter, 1925

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵 18

島根県固有評価: -

環境省: -

【選定理由】

国内における分布が比較的まれである。県内では近年まで確実な分布の記録はなかったが、2002年に県東部および西部のブナ林で分布が確認された。しかし、その後新たな産地は確認されていない。本種はブナ林に分布し、おもにブナの腐朽材上に生育するため、ブナ林の減少とともに、県内での絶滅が危惧される。

【概要】

子実体は一年生で柄がない。傘は半円形、へら形または扇形で、基部が細まり、傘の側面が基質に付着する。傘の幅5-20cm、基部の厚さ1-4cm。肉質は繊維質で放射状に裂くことができるが、乾くと著しく堅くなる。肉の色は類白色。傘の上面は不規則な粒状の突起をおびて粗荒、灰白色から栗褐色。傘下面は管孔状で、白色から褐色。孔口は円形、微細で4-5個/mm。担子胞子は二重構造のマンネンタケ型であり、広卵形、20-24×14-16.5μm、淡黄色、非アミロイド性。

本種は日本固有種とされていたが、近年中国および台湾に分布することが確認されている。国内では本州、四国、九州のブナ林に分布し、比較的まれな種で、ブナなどの広葉樹の倒木、切り株、立ち枯れた幹の地際近くに発生する。

【県内での生育地域・生育環境】

県東部および西部のブナ林において分布が確認されている生育地は倒木および立ち枯れたブナが比較的多い地域で、本種子実体はとくに立ち枯れたブナ樹幹の基部に発生しやすい。

【存続を脅かす原因】

ブナ林の減少による生育域の狭小化。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○		○																	

タバコウロコタケ目タバコウロコタケ科

ツヤナシマンネンタケ

Pyrrhoderma sendaiense (Yasuda) Imazeki, 1966

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵 18

島根県固有評価: -

環境省: -

【選定理由】

国内における分布が比較的まれである。県内では近年まで確実な分布の記録はなかったが、2002年に県東部および西部のブナ林で分布が確認された。しかし、その後新たな産地は確認されておらず、県内での絶滅が危惧される。

【概要】

子実体は傘と柄からなる。傘は腎臓形、扁平から貝殻状に湾曲し、長径幅3-10cm、厚さ3-10mm。傘上面は殻皮で被われ、灰褐色から肉桂色、にぶい光沢があり、放射状にしわ状の凹凸と浅い環溝がある。肉は白色、厚さ3-8mm。傘下面は管孔状、灰白色。孔口は円形、微細で7-8個/mm。柄は通常傘の片側につき、長さ5-10cm、幅0.5-1.5cm。柄表面は傘表面と同色で、厚く堅い殻皮で被われ、中実。担子胞子は類球形、無色、平滑、径5-6.5×5μm、薄壁、非アミロイド性。

本種は日本固有種とされていたが、近年中国、タイ（北

部）、インドネシアの冷温帯林から報告されている。国内では本州、四国、九州のブナ林に分布し、比較的まれな種で、ブナなどの広葉樹の倒木や切り株に発生する。

【県内での生育地域・生育環境】

県東部および西部のブナ林において分布が確認されている生育地は、比較的乾燥しにくい場所であり、腐朽の進んだブナなどの倒木が多く認められる。

【存続を脅かす原因】

生育域の狭小化、基質であるブナなどの倒木の減少、生育場所の乾燥化。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○				○																	

タマチヨレイタケ目タマチヨレイタケ科

タマチヨレイタケ

Polyporus tuberaster Jacquin : Fries, 1821

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価: -

環境省: -

【選定理由】

国内における分布が比較的まれである。県内では近年まで確実な分布の記録はなかったが、2002年に県中部のブナ林において1個体発生が確認された。しかし、その後新たな産地は確認されておらず、県内での絶滅が危惧される。

【概要】

子実体は傘と柄からなる。傘はほぼ円形、扁平で中央部がややくぼみ、漏斗状になる。傘の径は幅4-12cm、厚さ0.5-1cm。傘上面は平滑、淡黄褐色で平たく密着した黄褐色の鱗皮を被る。肉は白色、厚さ3-8mm。傘下面は管孔状、白色。孔口ははじめ円形、傘の生長にともないやや角張り放射状に長くなる。柄はほぼ中心生、長さ5-8cm、幅0.5-1cm。柄表面は黄白色から汚黄色、中実。しばしば地中に長径5-20cmの球塊状の偽菌核をつくり、子実体はこの菌核から発生するが、菌核を形成せず、朽木から発生するものもある。材の白色腐朽をお

こす。担子胞子は長楕円形、無色、平滑、10-15×4-5.5μm、薄壁、非アミロイド性。

本種は北半球の亜熱帯から温帯およびオーストラリアに分布する。国内では本州、四国、九州のブナ林に分布し、比較的まれな種で、ブナなどの広葉樹の倒木や切り株に発生する。

【県内での生育地域・生育環境】

県中部の三瓶山山麓のブナ林においてシデ枯枝上に発生した子実体が確認されている。

【存続を脅かす原因】

生育域の狭小化、基質であるシデなどの倒木の減少、生育場所の乾燥化。

生育地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○			○																	

菌類

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足